

いつか迎える「その時」。人生を美しく仕上げるために季刊誌

終活読本

ソナエ

2015年夏号

vol.9

定価(本体840円+税)
NIKKO MOOK

天台宗 浄土宗 浄土真宗 曹洞宗 日蓮宗…

お盆に確認 わが家の宗派

意外と知らない

永代供養墓

墓の継ぎ手がないなくとも安心

墓トモのルーツもここにあり
選ぶ前に知りたい7つのポイント

本当に役立つ 終活＆葬送資格の見分け方

森光子さんの「会葬礼状」

舞台で読んだ詩でお別れ



感謝2周年

有田白磁の骨壺プレゼント!

自分の死を常々語りたい
中尾ミエさん

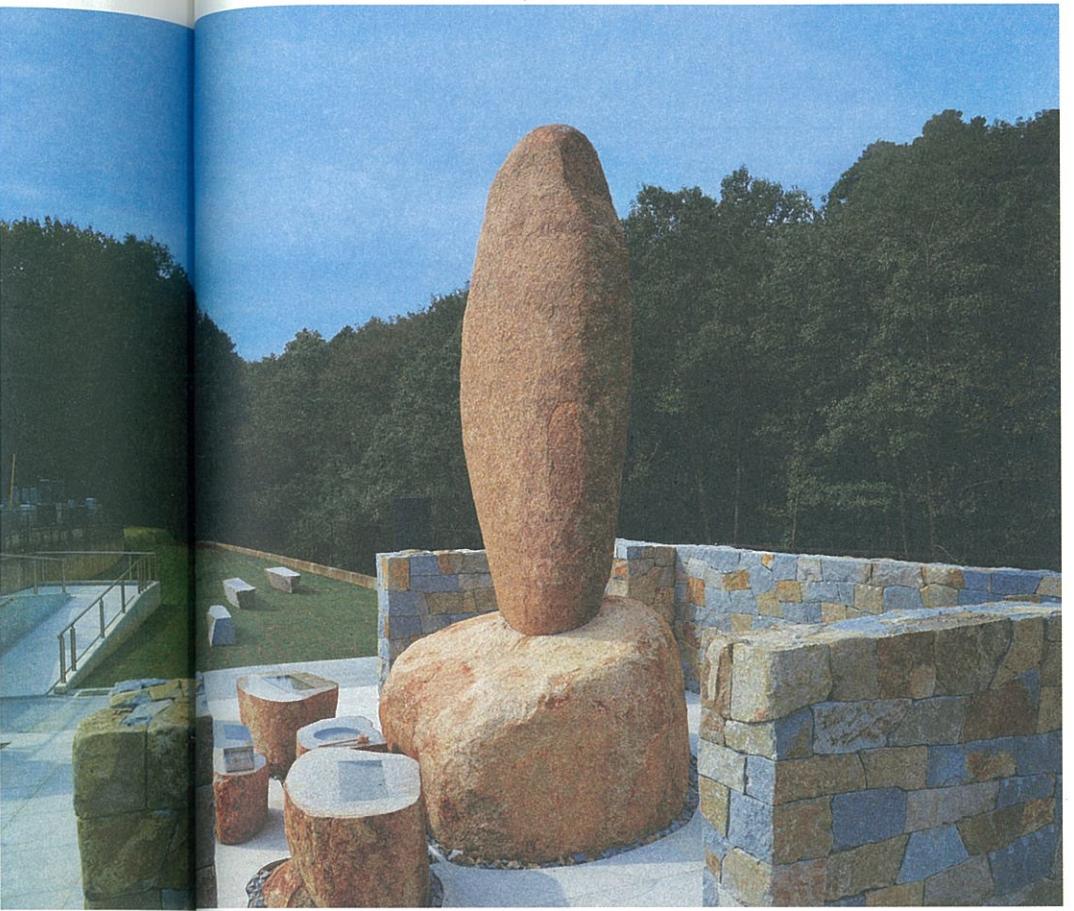


進化する光景

2

「庭園美術館」の永代供養墓

「昭和淨苑「浄縁墓」 埼玉・千葉」



「万成石」の原石を立ててつくった墓碑。芯が通つており大地震にも耐えられる(千葉県船橋市)

「ここを選んでよかったです」。そう思つてもらえる永代供養墓にしたい。東京都江戸川区にある證大寺の井上城治住職は永代供養墓に対する強い思いを持つている。

寺が管理運営する千葉県船橋市の「船橋昭和淨苑」と埼玉県東松山市の「森林公園昭和淨苑」に完成した永代供養墓は、旧来の墓地の観念を超える「庭園美術館」と呼ぶにふさわしいこだわりと迫力がある。

緑に囲まれたなか一般墓が並ぶ霊園を歩くと、千葉の霊園では高さ5・5メートル、埼玉の霊園では横4メートルの碑が迎えてくれる。国産の銘石として知られる万成石の原石だ。これほどの大きさの



井上城治住職



北木石の敷石には水が流れる仕組みがあり周囲を庵治石で積み上げた壁が囲む(埼玉県東松山市)



東京都江戸川区にある本坊。真宗大谷派(東本願寺)で1200年の由来を持つ

寺が永代供養墓を建立したのは2013年。背景には、墓を介した仮縁を大切にしていきたいという思いがある。

1985年に整備された、船橋

設計したという。和泉さんは「石そのものを生かし、みなさんが自然と手を合わせていただけるものにしたいと考えました」とメッセージを寄せている。

墓を介した縁を大切に

昭和淨苑の広さは甲子園球場並みの3万4000平方メートル、森林公園昭和淨苑はその1・7倍。それぞれ都会の喧騒を離れた、大自然のなかにある。ほかに本坊のある東京都江戸川区も含め、全体では約1万1000基もの一般墓が並ぶ。

だが、整備から30年近くがたつことで、次世代への墓の継承が難しくなったという声が出てきた。永代供養墓の「浄縁墓」はそんな人たちのセーフティーネットとなる

して整備された。もちろん現在、苑内に墓を持たない人たちの生前予約も歓迎だ。

井上住職は「継承の有無から自由になりたい、自分の生きた証を残したい、自分らしい場所を求めるといった人たちの受け皿となりたい」と話す。

仏教人生講座などで交流深め

「お墓を求めたら、それで関係が終わりということにはしたくないのです。お墓が縁となって、これからをよりよく生きていくことにならざりたい。お墓に入るまでなげていきたい。お墓に入るまでの時間を大切にしたいのです」と井上住職。

だから昭和淨苑では、苑内に墓を持つ人や、浄縁墓を生前契約した人たちとの関係を大切にしている。新しく契約した人たちには、月に一度開かれる「入会式」に参加してもらい、寺側の思いを伝えるようになっている。「仏教終活」と名づけた人生講座なども盛んに開催され、参加者らの交流へつながっている。契約して終わりではなく、契約

者同士が集える機会が多数用意されているのが特徴だ。

墓に眠る人のための供養も丁寧だ。毎朝、本堂で僧侶と職員が読経して供養するほか、月の法要、年に1度の合同法要を欠かさない。寺が存続する限り1000年たつても法要は続くことになる。

彼岸などの法要の際には、浄縁墓の前で1時間おきに読經と法話が勤められ、一般の参加者も含め多くの人が一緒に手を合わせる光景がみられる。「お寺やお墓という存在が、亡くなつた方への供養を大切にする場であるとともに、現代を生きる人たちにとつて自分自身を見つめ直し、感謝と尊敬の心を見いだせる場でありたい」と考える井上住職。昭和淨苑では、そんな思いが具現化しつつある。

昭和淨苑「浄縁墓」 船橋昭和淨苑
千葉県船橋市大神保町1306/森
谷196。
一般販売価格、1人60万円。浄土真宗
の法名(戒名)料を含む。仏教講座や
終活セミナーへの参加が無料になる
などの特典がある。本坊・東京都江戸
川区春江町4-23-1。問い合わせは、
證大寺 03-3655-4499へ。

原石は極めて珍しい。周囲には「花崗岩のダイヤ」と呼ばれる庵治石を積み重ねた壁が取り囲んでいる。これが證大寺の永代供養墓だ。地縁血縁をこえた浄土の縁という意味を込め「浄縁墓」と名づけた。遺骨は碑の下に設けられた空間に納める。1000年を経ても、墓が墓であり続けるように、地下空間、墓碑ともに強度の耐震設計がされている。

デザインは京都迎賓館の庭などを手がけてきた石彫家の和泉正敏さん。世界的芸術家イサム・ノグチ氏の終生のパートナーとしても知られている。「おしゃれをして訪れたくなる場所」をコンセプトに